

北海道大学病院が北海道で初の 「バルーン肺動脈拡張術指導施設」に認定 ～肺高血圧症の最善治療に向けて～

【ポイント】

- バルーン肺動脈拡張術 (balloon pulmonary angioplasty (BPA)) は慢性血栓塞栓性肺高血圧症 (chronic thromboembolic pulmonary hypertension (CTEPH)) に対するカテーテル治療です。
- CTEPH に対する有効な治療法として、近年日本から世界中に広がっています。
- 2021 年 7 月に北海道大学病院が北海道では唯一の「BPA 指導施設」に認定されました。

【概要】

CTEPH は国の難病に指定されている希少疾患です。CTEPH では血栓のために肺の血管（肺動脈）が徐々に狭くなり、その結果肺動脈内の圧が上昇します（その状態を「肺高血圧症」といいます）。一般に息切れ、むくみなどで発症し、重症な場合には心臓に大きな負担がかかり死亡に至る場合もある病気です。根本的な治療として手術（肺動脈血栓内膜切除術）がありますが、これは胸を開ける大きな手術であり CTEPH 患者でこの手術を受けられる方は 3-4 割程度です。一方、飲み薬もありますが、手術と比べると効果は小さく、肺動脈圧の低下や症状の軽減も限定的です。その中で、BPA は日本が世界に先駆けて、安全かつ有効にできることを発信してきた治療です。最近のデータでは、BPA でも手術に近い効果が得られることが示されており、近年世界中で急速に広がっています。ただしこの治療を安全・効果的に行うには疾患に対する正しい知識や専門的なトレーニングが必要です。そのため 2014 年に日本循環器学会が中心となり、BPA の「指導施設基準」と「実施医・指導医に関する基準」が設けられました。2020 年までに日本で 17 の施設が指導施設に認定されていましたが、北海道にはありませんでした。このたび、2021 年 7 月に北海道で初めて当院内科 I 佐藤隆博医師が「実施医」に認定され、それに併せて北海道大学病院が「指導施設」に認定されました。

【肺動脈バルーン拡張術（BPA）の方法】

BPA では、血栓によって中が狭くなった肺動脈に細いワイヤーを通し、そこで風船のついたカテーテルを膨らませることによって血管を広げ、肺の血流を改善します（図 1）。図 2 は実際の画像です。合併症を減らすための工夫として、初回は小さい風船でふくらませ、肺動脈圧が下がってから大きな風船でふくらませるという方法で行いました。2 回の治療後、血管が広がり、血流も改善していることがわかります。人間の肺は、右は 10、左は 8 つの区域に分かれています。一般に CTEPH では、ほとんど全ての区域の血管が血栓によって狭くなっています。息切れや酸素不足を改善するためにはそれら沢山の肺の血管を広げることが必要で、そのために複数回の治療が必要になります。

北海道大学病院は北海道内で CTEPH に対する手術（肺動脈血栓内膜切除術）ができる唯一の施設でもありますので、BPA と手術の両方について詳しく説明を聞いた上で治療方針を決めることが可能です。また、その他のいろいろなタイプの肺高血圧症も専門外来を設けて診療しています。

北海道大学病院は一人ひとりの患者の要望にも沿いながら、これからも最善の治療を提供して参ります。

図1

慢性血栓塞栓性肺高血圧症に対するバルーン肺動脈拡張術（BPA）

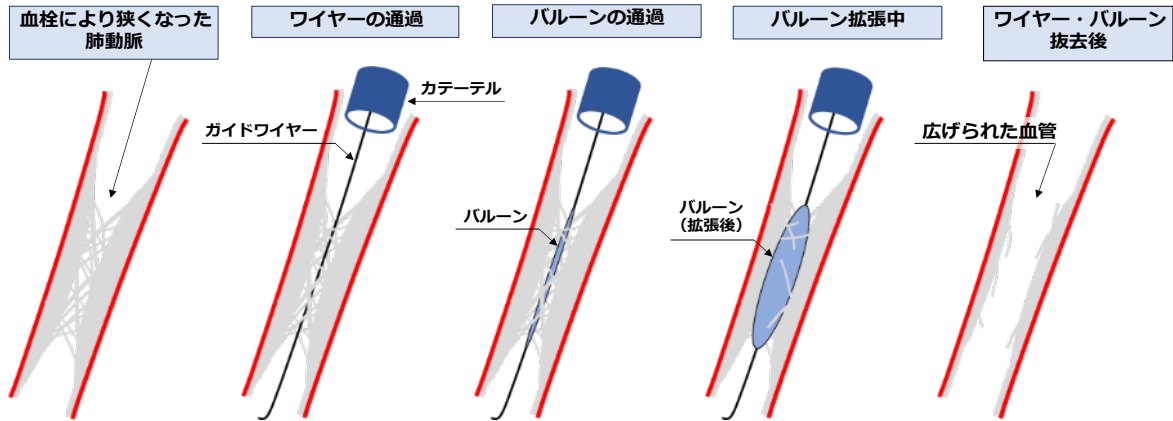
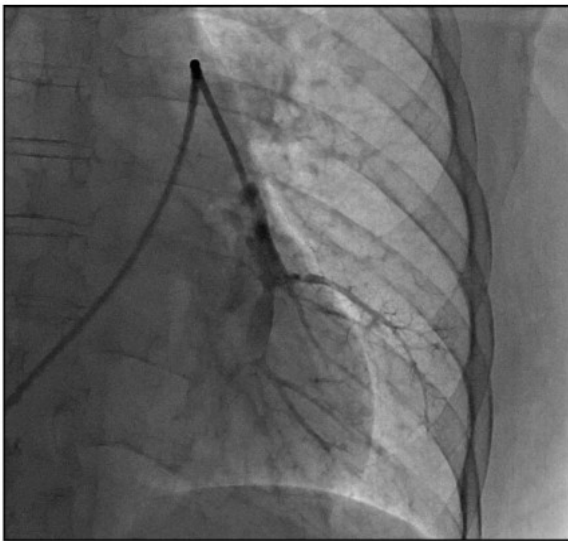


図2

【治療前】



【治療2回後】



お問い合わせ先

北海道大学病院内科 I 佐藤隆博 (さとうたかひろ)

T E L 011-706-5911 F A X 011-706-7899 メール takahirosato0716@med.hokudai.ac.jp

配信元

北海道大学病院総務課総務係 (〒060-8648 札幌市北区北 14 条西 5 丁目)

T E L 011-706-7631 F A X 011-706-7627 メール pr_office@huhp.hokudai.ac.jp